

## 第1学年 学級活動指導案

日 時  
授業者

1 題材名 「いろいろな食べものをたべよう」

## 2 題材設定の理由

児童の多くは、小学校に入学して初めて体験する学校給食にも慣れ、協力しながら楽しい給食の時間を過ごしている。家ではあまり食べる機会のなかった食材や献立があるという感想から、給食という場を生かして、食の幅が広がっている様子がうかがえる。一方で、苦手なもの、食べ慣れないものをそのまま残してしまう児童もいる。成長期の子どもたちにとって、必要な栄養素をバランスよくとることは、健康な体をつくる上で大切なことである。

そこで、食べ物はその働きによって、大きく3つのグループに分けられることを知り、3つのグループの食べ物を残さず食べようとする意欲を育てることをねらいとして本題材を設定した。

本題材は、特別活動の学級活動に位置づけられている「学校給食と望ましい食生活の形成」をねらいとしている。まず、自分が苦手としているものを意識させた後、今日の給食の材料を赤・黄・緑の箱から出し、同じ給食に使われた材料が色の違う箱から出てくることで、種類や働きの違いに気付かせていく。自分が苦手としている食品の種類、働きを知ることで、元気な体作りのために、いろいろな食べものを残さず食べていこうとする心情を高めたい。

指導にあたっては、食べたばかりの給食の食材に触れる、赤・黄・緑のシールを貼るなど、体験的な活動を通して児童の興味関心を高め、理解を深めることで、いろいろな食べものを食べていく実践につなげたい。

## 3 本時のねらい

- 元気な体を作るためには、いろいろな食べものを食べることが大切であることを知り、苦手なものも食べていこうとする心情を高める。

## 4 学習過程

学 習 活 動	時間	○支援	*評価
1. 自分の食事をふりかえる。 (1) 今日の給食で残してしまったものや苦手な食べものを書く。	5	○ 自分が苦手な食べものを意識することができるようにする。	
いろいろな食べものをたべよう			
2. 食べもののひみつを考える。 (1) 給食の食材が出てきた箱と同じ色のシールをシートに貼る。  (2) 食材がそれぞれの箱から出てきたわけを、働きの図から考える。  (3) 自分が苦手な食べものにもシールを貼り、その食品が果たす働きを確認する。	30	○ 赤・黄・緑の箱から、児童に食材を取り出させ、提示することにより、同じなかまの食品を知らせていく。  ○ 食材がそれぞれの箱から出たきた理由を、食品の種類や働きの図を用いることにより、気付かせていく。  ○ 残してしまう食品の働きを、シールを貼ることにより確認させていく。	
3. これからの自分の食事を考える。 (1) これからの食事ではどうするかを考え発表する。	10	○ 食事の時に気をつけることをシートに記入させることにより、実践への意欲を高める。 * 苦手なものも食べていこうとする心情が高まったか。(シート・発表)	

